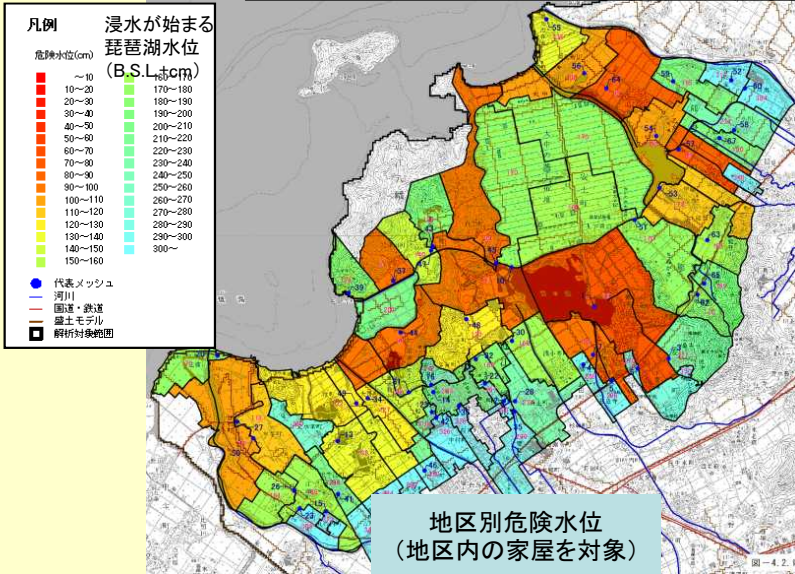


⑥湖辺域WGの状況報告

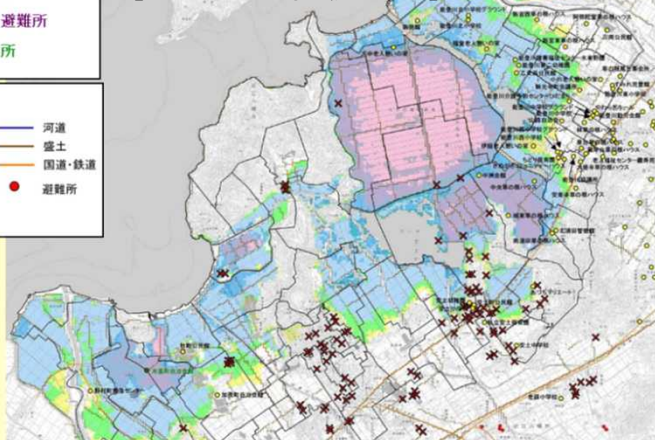
これまでの検討内容

地区別避難判断資料の作成

【家屋および農地等で浸水が発生するタイミングと避難所で浸水が発生するタイミングの整理】
東近江市および近江八幡市の琵琶湖浸水による浸水のタイミングを琵琶湖水位ごとに整理した。



【B.S.L.+2.50m時の浸水深図】



【湖辺域におけるはん濫状況の確認】
近江八幡市と東近江市が避難所の位置や避難ルート、避難所の使用可否等を確認した。

水害時畜産業減災対策の検討(大中地区)

水害時畜産業減災計画(案)の検討

■減災計画作成の目的

- 水害時の畜産業に対する減災対策を具体的かつ明確なものにする。(誰が、何を、いつ、どこで、なぜ、どのように)
- 行政機関と畜産農家とで課題解決に向けた議論を実施し、現状の問題点や対策の限界を共有し、連携を深めることで、これまで単独機関では実現出来なかった対応を可能にしておく。

■減災計画で想定する役割分担(案)

対応項目	主な実施主体	備考
洪水情報の提供	行政	
家畜避難場所の確保	行政、畜産農家	
家畜避難方法の検討	行政、畜産農家	
家畜避難開始の判断	行政、畜産農家	
家畜避難	行政、畜産農家	
運搬車、飼料、備品等の業者への協力要請	行政	
運搬車、飼料、備品等の購入(判断)	畜産農家	
避難場所での家畜の飼養	畜産農家	
糞尿処理	行政、畜産農家	衛生対策、公衆の
死亡畜処理	行政、畜産農家	安全確保等の観点
逃亡家畜の収容	行政、畜産農家	から行政も実施
緊急救護及び防疫	行政、畜産農家	
災害時の畜産物出荷方法の検討	行政	
災害時の畜産物の出荷	畜産農家	
減災に関する情報提供、指導	行政	
畜産関連施設の復旧	畜産農家	

●ただし、畜産農家を実施主体となっている項目についても行政はできる限りの助力を行う。

■減災計画作成の流れと現時点の検討状況

- 減災計画作成にあたっては、現段階で可能な範囲内で具体的な対策を考え、整理する。
- 行政機関、畜産農家等との協議、議論を踏まえて、随時更新し、完成度を高めていく。
- 平成22年度までの検討では、人の避難に関する条件に影響を受けない対策項目について、現状把握と課題抽出、対策方針の立案を行った。
- 平成23年度には、地元畜産農家に対して畜産業の減災についてのヒアリングを行った。

畜産農家へのヒアリング(H24.2)

■ヒアリング内容

- JAグリーン近江肉牛部会、酪農部会の部長らを対象にヒアリングを実施した。
- 可能な限り家畜の避難を行いたいという意思や、肉用牛と乳用牛で避難にあたっての課題等が異なることが確認できた。

■今後の進め方について確認した事項

- 地元畜産農家が自ら対策を検討して行く意思が確認できたため、今後は畜産農家も交えた検討も視野にいれて検討を進めて行く。

第5回協議会での方針(H24.11)

- 大中地区の検討は、これまでの検討結果を整理し、まとめる方向で検討を進める。

大中の湖土地改良区出前講座(H25.2)

■主な意見

- 浸水区域内に避難所があるので、精査してほしい。
- 逃げるところがないので、土地改良区と3集落が集まって避難の対策を考える必要がある。
- 避難勧告を発令する際の、2市での調整すべきではないか。
- 移動式ポンプの設置や水門管理の要望。

第20回担当者会議(H25.3)

■今後の方針について提案内容

- 出前講座の結果、人命回避に関する検討が不十分であるという認識をしている。したがって、人命被害回避のための検討を優先して進め、人の行動がある程度固まってから畜産の減災について議論していくこととしたい。

■今後の方針

- 人命被害回避のための検討に向けて、近江八幡市役所内で調整を行う。

今後の取り組み方針

大中地区WGを湖辺域WGの下にサブグループとして新たに設置することを視野に入れ、水害に対する検討を行う。

⑦葛巻町での取り組み内容（1/3）

水害に強い地域づくりの検討（東近江市葛巻町）

目的

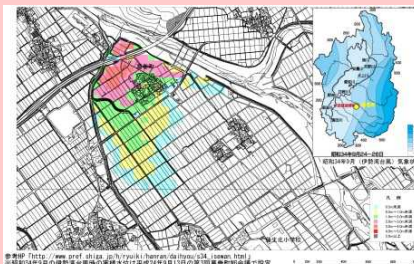
日野川中流左岸地区のモデル集落として、地域防災力の向上を図る。

葛巻町でのこれまでの取り組み

H22/2/10	WG(聞き取り調査)	・水害経験者から水害に関する聞き取り調査
H22/7/4	出前講座	・水防活動や水害体験の伝承を行い、水害に対する意識啓発を実施
H23/2/13	水害図上訓練	・水害図上訓練を実施
H23/11/22	測量調査	・葛巻町の住民と集落内の測量調査を実施
H23/11/22、 12/22	WG	・水害時の集合場所や集落内の避難ルールを議論 ・まるごとまちごとハザードマップについて議論
H24/9/13	実績水位の調査	・住民の記憶を基に、伊勢湾台風時の実績水位を測量。
H24/10/21	避難訓練の実施	・避難訓練の実施 ・実施結果から看板設置位置や看板記載内容の見直し
H25/9/15	台風18号の発生	
H25/9/27	WG	・台風18号での課題について議論。
H25/10/4	WG	・再度、台風18号の振り返り。 ・避難訓練の事前打ち合わせ
H25/10/20	避難訓練の実施	・台風18号の課題を踏まえた避難訓練の実施 ・集落の人々を対象とした台風18号の振り返り
H26/2/4	WG	・避難訓練を振り返り、課題等について議論した。 ・自主避難計画書(案)を用いて、内容について議論
H26/4/26	葛巻町防災ファイル(自主避難計画書)の配布	・「葛巻町防災ファイル」を葛巻町住民全戸に配布。
H26/10/03	WG	・地域版タイムラインの検討 ・避難訓練の事前打ち合わせ
H26/10/19	避難訓練の実施	・タイムラインを活用した避難訓練を実施。 ・平日昼間の役員が不足する状況を想定するなど課題を明確化
H27/3/5	WG	・避難訓練の振り返り、課題の議論 ・防災ファイルの更新について議論

平成24年度までの主な取り組み

- 集落内の測量、実績水位の調査
- ・地域住民が集落内の水準測量調査を実施し、水害時に危険な箇所を抽出した。
- ・地域住民の記憶を基に、伊勢湾台風時の実績水位をT.P. 113.0mとした。



【昭和34年9月伊勢湾台風時の実績浸水深図】

- 集落における避難訓練の実施
- ・浸水深等を表示した仮看板を葛巻町内の電柱に設置し、これを活用した避難訓練を実施した。
- ・東近江市消防団および東近江市より、簡易な担架の作り方と土嚢の作り方等の説明が行われた。

- まるまち看板の設置
- ・避難訓練の実施結果から、まるまち看板(まるごとまちごとハザードマップ)の設置位置や看板記載内容の見直しを行い、最終的に、浸水深看板を9箇所、避難所看板を1箇所設置した。



【合同測量調査】



【避難訓練実施状況】



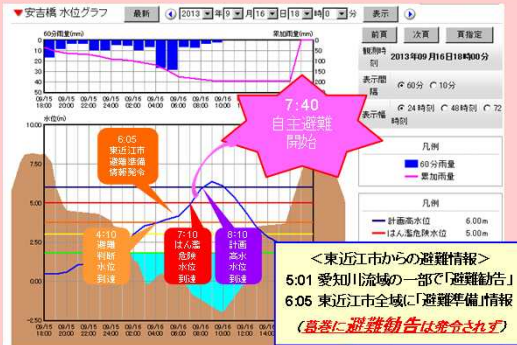
【まるまち看板の設置状況】

⑦葛巻町での取り組み内容（2/3）

平成25年度水害に強い地域づくりの検討

平成25年台風18号の概況

- 法教寺川で越水を確認された(9月16日7:00ごろ)
- 葛巻町には、難勧告は発令されなかったが、自主避難を実施した。



【台風18号の概況】



【避難状況(蒲生北小学校)】

集落における避難訓練の実施

- 台風18号での経験を踏まえて、避難訓練を実施した。
- 葛巻町の人々が避難終了した後に、台風18号での状況や課題等を説明する振り返りを実施した。



【避難訓練実施状況:避難者数の確認】



【台風18号の振り返り】

平成25年台風18号で挙げられた課題

- 組織体制・連絡体制の課題
 - ・平日の少ない役員体制で、今回の様に対処することができるのか不安である。
 - ・名簿がパソコンに保存されているが、印刷しておらず、すぐに使える状態になかった。
 - ・自主避難の連絡を4人で行っていたが、詳細に情報確認される人への対応等、時間がかかった。また本部機能も並行する中、全戸への電話連絡は困難を極めた。

- 避難に関する課題
 - ・避難所の小学校の鍵は本庁にあり、支所では鍵が管理されておらず、すぐに対応できないことが分かった。
 - ・車での避難を行ったが、日野川が切れていた折には車では行けないことも想定する必要がある。
 - ・避難所に必要な道具、食糧等の備蓄が必要。要支援者への配慮も必要である。
 - ・避難を呼びかけても、「2階でよい」「家に大事なものがある」という思いから避難を行わない住民がいた。
 - ・早めの避難判断に対して批判の声はなかった。

- その他
 - ・土嚢袋や砂などの水防資材の備蓄確認が必要である。
 - ・支所や学校、行政と連携した避難訓練が必要。



【土のう作業状況(H25T18発生時)】

不足した土のうを補充するため
グラウンドの土をトラクターで掘り起こして利用
足りない土のう袋はホームセンターに買い出し

自主避難計画書の検討

- 葛巻町WGでは、台風18号での経験を踏まえて、洪水時の課題を抽出した。さらに、これらの課題を受けて、避難訓練を実施した。以上の結果を受けて、自主的避難計画書の検討を行った。
- 計画書案では、目的、避難所、防災情報、洪水時の避難行動、防災活動、防災訓練、資機材の管理・補充、計画書の更新について記載し、補足資料として、人員確認の際に必要な避難状況確認シート様式、周辺地盤高、葛巻町周辺の地先の安全度マップ等を添付した。
- 概要と避難ルートをもとめたものを掲載し、避難時は、この部分を見るだけでも活用できるように配慮した。



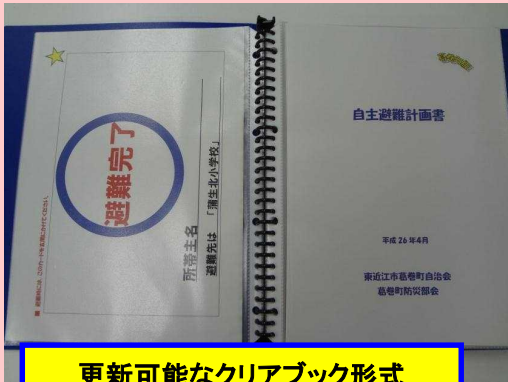
【自主避難計画書(案)の一部】

⑦葛巻町での取り組み内容（3/3）

平成26年度水害に強い地域づくりの検討

葛巻町防災ファイル(自主避難計画書)の配布

- 自主避難計画を中心にとりまとめた「葛巻町防災ファイル」を葛巻町住民全戸に配布した。
- 配布にあたり、クリアブック形式で差し替え可能な形式とした。



更新可能なクリアブック形式



全戸に配布

【葛巻町防災ファイル(自主避難計画書)】

地域版タイムライン(案)の検討と避難訓練の計画

- 役員、住民、要支援者ごとに分類したタイムラインの検討を行っている。

災害発生までの時間	想定災害時系列	訓練時刻	自治会本部 (役割ごとに細分)	一般住民 一般住民の方	要支援者 要支援者の方
前日までに	台風18号を想定		【会 長】当日の組織体制(案)の計画 (役員が不足する平日を想定した組織) 【会 長】当日の組織体制表の作成 *1 訓練内容の確認、タイムラインの内容確認 *2	代理者は交代できるよう対応準備 雨量、水位情報の操作確認	避難方法について組長に報告 (ハウスに避難 or 二階に避難) 要支援が必要な方は自己申告
(9時間前)	【安吉橋の水位】 水防団出動水位(1.8m)到達	2:50	【会 長】災害対策本部立ち上げ	関係者全員	避難準備(すぐに避難できる状態に)
	【渾生局の時間雨量】 20mm/h程度(強雨)	3:00	【役 員】草の根ハウスに役員集合 本部体制・役割分担の確認 *1	会長以下組長	
(6時間前)	【特等(西明寺)局の時間雨量】 時間雨量 30mm/h程度	3:15	【現地班】パトロール箇所見回り ※日野川橋、神社裏、名神北、法教寺川、10号排水、大溝一の橋 *3	現地班	
	【特等(西明寺)局の累加雨量】 累加雨量 150mm超過	3:15	【組 長】要支援者に避難準備を指示	組 長	
(6時間前)	【安吉橋の水位】 はん濫注意水位(3.0m)到達		【組 長】住民の所在確認	組 長	所在情報報告
	→避難準備情報の発令 【市・支所】避難所開設準備		【情報班】安吉橋水位情報の注視 安吉橋河川カメラの注視	会長以下組長	草の根ハウスに一時避難開始 (困難な場合は要支援者と共に二階へ避難) ※二階避難の場合はその旨組長に連絡
(6時間前)	【渾生局の時間雨量】 20mm/h程度(強雨)				※玄関に「避難完了カード」をかける。 戸締まりに充分注意する。
	【特等(西明寺)局の累加雨量】 累加雨量 200mm超過		【組 長】要支援者の状況確認	組 長	避難準備開始 (すぐに避難できる状態)
	【市・支所】避難所受入れ開始	3:20	【会 長】支所・学校に避難所受入れ状況を確認	会 長	一時避難完了。組長に状況報告。
			【避難経路確認班】 避難経路の安全確認	避難経路班	

【葛巻版タイムライン】

実践的な避難訓練の実施(タイムラインを活用した避難訓練)

- 防災ファイル、タイムラインを活用した避難訓練を実施
 - 平日昼間の役員が不足する状況を想定するなど課題を明確化。
- ① 全員が訓練・避難の流れを理解する
→「タイムライン」を前日に配布
 - ② 役員体制が困難な平日を想定
→あえて不在役員を作り、代理者による訓練



【自治会本部の役割の確認】



【組ごとによる住民の避難】



【自治会本部による状況確認】



【自警団による土のう講習】

今後の取り組み方針

- 今後は地域の手による自主避難計画の更新や避難訓練が継続的に実施にできるよう必要な支援・WGの議論を行っていく。また葛巻WGでの事例やノウハウを他の地域でも活用できるように一般化に向けた取り組みを進めていきたい。